

旅立ち 思いはせる七夕

元気ですか？

また会えますように

一関市川崎町の常堅寺（後藤泰彦住職）は7日、七夕に合わせた終活カフェを初めて開いた。旅立った大切な人やペットに「元気でいますか？」「また会えますように」などといった短冊をササに結び、「自分らしい最期」について語り合った。思いを寄せる場として、住職夫婦が整備した「虹のガーデン」もお披露目された。

近隣住民ら約15人が参加。同市花泉町の自営業佐々木昭子さん（63）は3年ほど前に愛犬「ころ」をなくし、同寺でペットと入る墓を昨年購入した。

「ころとは家族として過ごしていた。子どもが先に死んだような感覚でペットロスだったが、一緒の墓に入れると思うと気持ちが

一関・常堅寺 終活カフェ

人、ペット宛てに短冊

楽になった」とほほ笑んだ。5月に他界した父秀昭さんは、愛犬と一緒に眠りたいとの思いがあったことから、8月に一緒に納骨する。

同寺では樹木葬のニーズが高く、2023年の専用霊園の開園から2年で全55区画のうち6割以上が契約済みとなっている。60代の女性が友人と隣り合わせて樹木葬の墓を購入する例もあり、「自分らしい永眠の形」は多様化しているという。

後藤住職（65）は「墓じまいや孤独死が増える今、自分がどう葬られるかについて、意識を高めていく必要がある。それぞれ事情があることから、話を聞いてなるべく対応したい」と相談を受け付ける。虹のガーデンは、アジサイやマリーゴールドなどの植物が約50種植えられ、いつでも見学できる。

（佐藤しおん）



短冊に大切な人やペットへの思いを込め、手を合わせる参加者